

---

# 夏目友人帳～Before・Story～

田中太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏目友人帳／Before・Story

### 【NZコード】

N9205Y

### 【作者名】

田中太郎

### 【あらすじ】

これは、斑が夏目漱石と出会つ前の物語。

(前書き)

最後の方は意味不明ですが、まあご愛嬌ですね…

夏田貴志が「ヤン」先生

斑まだりと出会ひの遙か昔の事、やうご聞うきつと

夏田の祖母

夏目レイコと先生が出会ひの事…

大体、夏田貴志一（以降夏田）が生きている時代より300年ほど

前江戸時代の

斑の物語だ。

「いたぞーあつちだー！」

徳川の家紋が入った服を身に纏い、同じく家紋が入った帽子をかぶった兵士が

何かを見つけ、援軍を呼んだ。およそ100人と言つたところか…

「くそ、見つかったか！」

その追われている何かは、後の「ヤン」先生となる斑であった。

このころの斑は、所謂そこそこの妖でそれなりに警戒される妖であつたため

今こうして追われているのだがやはり一匹の妖に費やす兵力ではない。

そして、銃を持った兵士たちが一斉に銃弾を放つた。

しかしその銃弾が斑に当たる事はなかつた。

「な、なんだあれは…？」

何故なら、銃弾は剣を持った謎の男によつて叩き落されたのだからだ。

「おいおい、一匹の妖相手にその大軍はないんじゃないのか？」  
男は、100の大軍に微塵も恐れることなく立ち塞がる。

「（な、なんだ？何故私を庇う？）」

さすがの斑もこれには、動搖を隠せない。

すると一人の兵士がその男について思い出したようで、声を上げる。

「ん？銀色の髪…」最近妙に妖の方を持つ夏田と言つ白銀の髪の男  
が居ると

聞いた事がある…まさか、お前…！」

一人の兵士がそう言つとどんどんざわめきが広がって行く。

「それは、真か？そういえばワシも聞いた事があるぞ、徳川100  
0の軍を

一人で難ぎ倒した男が夏目と言つ白銀の髪の男だと…」

老練とした兵の一人が言つので、信憑性が生まれ軍内のざわめきが  
一層大きくなる。

「1000の兵を一人で…そ、そんな怪物に勝てるわけがない…」

そんな軍の状態を見越し、指揮官は撤退命令を出す。

「（…この士気の下がり様では、勝てる者も勝てぬの…仕方ない…）

撤退だ…」

「「「「…はつ」」」」

総員が了解の意を示し徳川100の兵は撤退していく。

謎の男　　夏目と斑しかいなくなつたその場で夏田は、斑に話しか  
ける。

「おい、大丈夫か？」

「…ああ、それより何故お前は私をかばつたのだ？」  
斑の疑問は尤もである。

「？そりやあ、お前あれだよ、俺は知ってるからだよ。」

「…何をだ？何を知つているのだ？」

「妖がすべて悪い奴じゃないってことをな…だからだ、それにしても  
なんでお前は、あんな大軍に追われてたんだ？」  
斑の質問に答えて後夏田も質問をする。

「…私は、その内人の手の負えなくなるくらい大きな妖になるそ  
うだ、  
そうなる前にと、よくあのくらーの大軍で来るんだ…」

「…じゃあ、俺と一緒に来るか？俺にとつてお前くらい強い妖が  
一緒にはうれしい、それに自惚れではなく俺がお前を手に負えな  
くなる事はないだろうからな」

最後のが自惚れではないと言えるのはやはり、夏田の力が強い事が  
あるのだろう。

「…（手に負えなくならるのは、うそではないだらけ）  
こいつがホントに気に食わないのなら食つてしまえばよいのだから  
な…）いいぞ、ついていこい」  
裏がありすぎると黙つても過言ではないが承諾の意を示した斑だつ

た。

「そりやあ、なら契を交そつ。俺は、何があつてもお前を見捨てない

だから、お前は俺が死んでからも俺の血縁者を守るんだ。」

「…まあ、いいだろ？。」

そして、一人は契を交した。

その後、夏目と斑はいろいろなところを旅した。

秘湯を探したり、うまい酒を探したり、いろいろな事をした。  
そんなある日、夏目は街で知り合った女と結婚すると言い出した。

「斑、おれはここと結婚する。」

夏目は、そうこうしてその女を見せる。

「…こいんじゃないのか？」

そつまは言っているが、何かをみしそうな顔をしている。

「…ありがとう、でも旅は続けるからな。」

「ああ！」どうやら、斑も夏目と旅するには楽しいようだ。  
事実、斑は夏目と旅するようになつてからあまり強大化していない。  
だが、結婚し子供も生まれると夏目は、斑との旅をする回数が減つ  
て行つた。

「夏目…」

斑が話しかけるが…

「斑か、今忙しい後にしてくれ。」

そつまはどこかへ行つてしまつ。

「（これでは、契が違うではないか…）」

そんな日々がじばりく続き、斑の強大化が始まつて行つた。

「（くつ…力が強くなつていいくのが分かる…いつか自分でも制御できなくなるのだろうか…）」

斑は、そう思い夏目に相談しようと思つが実行には移さなかつた。理由は簡単、斑は、夏目は私を見捨てたと思ったからだ。

それから、2年経つた。斑の力は、夏目と出会つた時とは比べ物にならないくらい強大になつていた。

そんなある日

「！（なんだ？急に力が…）」

斑の体がどんどん黒に染まつて行く。

「（い、意識が…）」

そして、一端倒れるがすぐに立ち上がるその時の斑はとても恐ろしかつた。

「グオオオオオオ！」

咆哮を上げ、走り出す。民家を踏みつぶし逃げていく人を喰らう

それは、まさしく悪魔だった。

夏目も、その斑の暴走に気付きとめに行く。  
途中夏目の妻が止めるが…

「すまん、斑は俺が止めないといけない…いや、俺が止めたいんだ  
！分かつてくれとは

言わない、それじゃ子供は頼んだ！」

と詰めの制止を振り切り走つて行く。

「（斑…すまない…最近、相手をしてやれなくて…）」

そつ、思つていると暴走現場に着いた。

そこは、地獄絵図だつた。

たくさんの血、ところどころ落ちてゐる生首

「（……う久しぶりだな、）こんな空気…早く斑を止めなくては」  
夏田は、あの銃弾を叩き落した剣を抜き斑に向かって走る。

「うおおおおー！」

人間とは思えない跳躍力で飛び、斑に一閃。

しかし、斑の巨大な爪に防がれる。

それの繰り返しだったが、ついに斑が競り勝ち夏田をその爪が切り裂く。

「グハッ」

血を吐き、倒れしていく夏田、その時よつやく斑は正気を取り戻した。

「……？（何だつたんだ？…ん？あれば、夏田…？）」

斑は、正気に戻ると倒れている夏田を見つける。

「……夏田……」

斑は、自分がやつたと氣付いたようだ。

「……うおお、斑か…すまん、最近一緒に旅できなくて…  
おつと、俺は多分死ぬな、今までありがとう…そして、さよなら…」  
そして、夏田は動かなくなつた。

「なんだ…最後に謝つて…腹立つ…でもなんでだ…涙がとまらない  
…」

斑は、死んだ夏田を持って山奥に行きそこには埋めた。

「……じゃあな」

そして、斑はある妖祓いの所に行き封印してもらつた。

それから200年ほどたつたころ、夏田レイコによってその封印がとされた。

「…？誰だ？（この封印を解くとは…）」

斑がそう聞くと

「あれ？やつぱつここのか…」

帰ってきた声は、女性の声だった。田の光が当たるとその女性の顔が見えた。

「…夏田！？」

斑は、驚く。

「多分、それはひいおじいちゃんの事ね…文献に書いてあつたわ。それにこの封印がゆるくなつてたからし直しに来たんだけど…出てくる？」

レイコがそう言つと斑は、出ると答えた。

「久しぶりにな…（それに夏田との契がある事だしな）」

そして、見る景色はとても変わっていた。

それから、数年が経ち斑はいろいろな祭り事に顔を出し名を売つて行つた。

斑は、レイコに何故、友人帳を作るのかを聞いた。

暇つぶしよと答えていたので、斑はレイコが死んだらもう一つ約束をした。

その約束をしてから数日、レイコは、ついに妖との戦いに敗れて死んだ。

だが、斑は友人帳をもう一つとはせず、血を招き猫をよつしろした。

封印をせた。

ちなみに今度は、夏田の血縁者出なれば解く事ができない封印にした。

それから一〇〇年ほどが経て今度は、夏田貴志によつて封印が解かれた。

「……………起きてるー先生」

誰かが斑を起こす声が聞こえる。

「……………なんだ夏田か？（久しづりにあの夢を見たな……）」

「……………ひり、もうすぐで温泉に着くから起きあ。」

「ああ、」

そして、温泉に着くとそこには夏田と斑が旅をしていた時初めて訪れた所だった。

side 斑

なんの因縁なのか…

それでも私は夏田とはやはり切つても切れない縁のようじやな…

これからもいろんな関係がつづくのだろうか…

それは、またかんがえていくしかないか…

今は、これから温泉を楽しもう！

(後書き)

読みでくださりてありがとうございました。  
意味不明ですね…すいません。  
どうでしたかね…?

感想待つてます。批判は「遠慮へださご。

それでは、また…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9205y/>

夏目友人帳～Before・Story～

2011年11月27日16時53分発行